# 新しい公共の場づくりのためのモデル事業　H23実績及びH24計画一覧（1／2）

島根県NPO活動推進室

＜通常枠＞

| No | 事業名 | 事業主体 | | H23事業実績 | | | H24計画 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 協議体、行政、団体名 | 対象地域 | 事業内容 | 成果 | 決算（見込） | 事業内容 | 予算 |
| 1 | ツアーコーディネーター養成による新たな観光形態と収入機会の創出 | ＜協議体名＞<br>隠岐ジオパーク戦略会議<br>＜団体＞<br>風待ち海道倶楽部<br>＜行政＞<br>隠岐の島町教育委員会<br>＜主な会議体構成団体＞<br>隠岐自然倶楽部、島後とぎの会、株式会社ワコムアイティ、隠岐汽船株式会社、隠岐の島町観光協会、藤井基礎設計事務所 | 隠岐の島町 | 1. 事業内容<br>(1) 自主財源確立に資する事業の実施<br>①ソーシャルアプリ（寄付付き商品）の開発<br>②ファンドレイジングに関する勉強会の実施<br>H24年度からは、新たにファンドレイジング部会を設置予定<br>③ガイド収入機会の創出<br>※平成23年1月に隠岐ジオパークガイド倶楽部を設立<br>(2) ガイド協会機能の育成に資する事業の実施<br>①ツアープログラムの造成<br>※3名の有償ガイドを育成<br>②認定ガイド制度の導入<br>③ソーシャルメディアを活用した情報発信<br>Facebook、Twitterにより活動の情報発信を行った | ①有償ガイドの育成<br>・「隠岐ジオパークガイド倶楽部」を設立。<br>・3名の有償ガイドを育成。（H24年度には更に3名を育成）<br>②ガイド協会機能の確立とガイドによる収入機会の創出<br>・H24以降、隠岐ジオパーク戦略会議が専門的なツアーに対応可能。収入機会の創出につなげる。<br>③ソーシャルアプリ開発による満足度向上とガイドのスキルアップ<br>・スマートフォン対応のソーシャルアプリを開発<br>④ファンドレイジングによる資金調達<br>ファンドレイジング研修会に参加し、情報収集等を行った<br>⑤組織の自立化と活動の継続<br>・H24に組織のNPO化への基盤が構築できた。<br>・組織の継続と活動を継続するための資金調達方法の基礎ができた | ■収入計　5，480千円<br>＜内訳(千円)＞<br>助成金　5,469<br>自己資金等 11<br><br>■支出計　5，480千円<br>＜内訳(千円)＞<br>人件費 1,921<br>研修費（ファンドレイジング）32<br>旅費・宿泊費502<br>業務委託費（アプリ開発）2,625<br>通信運搬費39、会議費8<br>光熱費48、役務費3<br>事務所経費302 | (1) 自主財源確保に資する事業<br>①ソーシャルアプリ（寄付付き商品）のアップグレード<br>②ファンドレイジングによる資金調達<br>③（仮称）隠岐ジオパークファン倶楽部の設立<br>④ジオツアーおよびシーカヤックツアーの実施による資金調達<br>⑤戦略会議のNPO法人化<br>(2) ガイド協会機能の育成に資する事業<br>①ツアープログラムの造成（ジオツアー、シーカヤックツアー）<br>②有償ガイドの育成（新たに5名の有償ガイドを育成）<br>③認定ガイド制度の導入（認定ガイド試験の実施）<br>④ソーシャルメディア等を活用した情報発信<br>Facebook、Twitterの継続活用、ホームページの開設 | ■収入計　5，577千円<br>＜内訳（千円）＞<br>助成金4,027<br>寄付金50、アプリ販売300<br>ｶﾞｲﾄﾞ料600、その他600<br><br>■支出計　5，577千円<br>＜内訳（千円）＞<br>人件費4,138<br>講師謝金等206<br>旅費・宿泊費155<br>業務委託費525（アプリ関係費）<br>通信運搬費344<br>その他209 |
| 2 | テーマコミュニティとエリアコミュニティの融合による新しい支えあいの仕組みづくり事業 | ＜協議体名＞<br>益田市市民活動推進協議会<br>＜団体＞<br>NPO法人アンダンテ21<br>＜行政＞<br>益田市地域振興課<br>＜主な会議体構成団体＞<br>益田市保育研究会、NPO法人コアラッチ、社会福祉法人益田市社会福祉協議会 | 益田市 | (1) エリアコミュニティ支援事業<br>当協議会の構成団体持っている専門ノウハウを活用して、地域課題を解決する仕組みを構築<br>①「地産地消の保育所給食事業」（益田市保育研究会）<br>市内で収穫される農産物を、保育所の給食食材として活用<br>②「森に入ろうプログラム」（NPO法人アンダンテ21）<br>放置森林の現状を知り、森林整備を行う体制を構築<br>③「レジ袋削減活用プロジェクト」（NPO法人コアラッチ）<br>有料化されたレジ袋代金をNPOの環境活動の資金として寄付される仕組みづくり<br><br>(2) 活動組織基盤強化事業<br>a. NPO教育プログラム事業化事業<br>中西小学校5・6年生対象に「寄付の教室」を実施<br>・「寄付の教室」実施<br>b. 市民活動支援センターサポートスタッフ配置 | ①「地産地消の保育所給食事業」<br>・地産品の消費・食育について、市民の意識向上につながった<br>②「森に入ろうプログラム」<br>・森の健康診断士を10名育成、24年度は「森の健康診断」を実施（拡充）<br>③「レジ袋削減活用プロジェクト」<br>・市内18店舗と連携。環境基金を設立し、レジ袋代金を市内の環境活動に還元できる仕組みを構築<br>a. NPO教育プログラム事業化事業<br>・子どもと一緒に保護者（大人）もNPOや寄付について考える機会となった<br>b. 市民活動支援センターサポートスタッフ配置<br>・地域の声を直接聞き、NPO等とのマッチング、行政に向けての情報発信ができた | ■収入計　3，558千円<br>＜内訳(千円)＞<br>助成金　3,558<br><br>■支出計　3，558千円<br>＜内訳（千円）＞<br>人件費1,223、使用料185<br>印刷製本費74<br>旅費226、諸謝金26<br>消耗品204、備品158<br>通信運搬費36<br>委託費1,174（各種事業）<br>その他252 | ①エリアコミュニティ支援事業<br>■オール益田プログラム<br>「地産地消の保育所給食事業」（益田市保育研究会）<br>・市民活動支援センターによるマッチングと意見交換会の開催<br>・地域の食材を活用する献立を立て、給食を実施<br>・取り組みのPRと検証<br>「森を生かそう」プロジェクト<br>・「森の健康診断」研修会の開催<br>・伐木・造材・集材・搬出・木材加工研修会<br>「あたらしいつながり　唐音水仙公園」<br>・地域とボランティアスタッフのマッチング<br>・唐音水仙公園の草刈（7月～9月）<br><br>②組織基盤強化事業<br>■サポートスタッフ配置<br>テーマコミュニティとエリアコミュニティのマッチング、コーディネート | ■収入計　6，207千円<br>＜内訳（千円）＞<br>助成金6,207<br><br>■支出計　6，207千円<br>＜内訳（千円）＞<br>人件費3,512<br>使用料333<br>水道光熱費12<br>印刷製本費290<br>旅費545<br>諸謝金800<br>消耗品473<br>通信運搬費70<br>その他172 |
| 3 | 島の「新しい公共」を担うソフトパワー創出事業 | ＜協議体名＞<br>海士町ソフトパワー創出推進協議会<br>＜団体＞<br>海士町観光協会<br>＜行政＞<br>海士町交流促進課<br>＜主な会議体構成団体＞<br>（株）海士、海士交通、海士町漁協、JAどうぜん海士支所、（株）潮風ファーム、岩ガキ生産組合（株）、NPO法人海士人、隠岐國商工会 | 海士町 | ①島の魅力を伝える立場にある多様な担い手が、顧客中心主義に立脚した1つの『島基準』を協働して策定し、連携してサービス改善につなげる仕組みを構築<br>※もてなし講習を実践<br>1）島宿掃除基準のマニュアル化<br>2）島宿並びに観光客のターゲットの明確化<br>②任意団体である観光協会を法人化〔一般社団・H23年度末〕<br>今後は、行商部門、アンテナショップ部門、もてなし部門、インフォメーション部門、宿泊・交通関連部門を事業部として独立させ、効果的な中間支援組織としての人材受入れ、研修及び派遣事業を行う<br>※研修生の募集と受入のマッチング<br>③観光協会の各事業部と地域における観光関連事業者と協働して、地域通貨の域内循環ツールを積極的に活用した仕組みを改めて構築〔H23年末頃運用開始〕<br>※地域通貨生活の実証実験 | 協議会の中のみならず、観光協会を核にした今回の取り組みに対する地域住民の期待する声を聞き、関係するスタッフは勿論、周りが良い意味で賑やかになって来ているのを実感している。 | ■収入計　4，610千円<br>＜内訳(千円)＞<br>助成金4,610<br><br>■支出計　4，610千円<br>＜内訳（千円）＞<br>人件費1,890<br>報償費164<br>旅費1,399<br>需用費150<br>印刷製本費960<br>その他47 | ①策定した『島基準』について、現場の声を参考に不断の改訂作業を行い、連携してサービス改善につなげる仕組みを構築<br>②法人化した観光協会において、行商部門、アンテナショップ部門、もてなし部門、インフォメーション部門、宿泊・交通関連部門を事業部として独立させ、中間支援組織として、人材受入れ、研修及び派遣事業を実施<br>③地域通貨の域内循環ツールを積極的に活用した仕組みを改めて構築<br>④「新しい公共」を一層推進する上では、業績／成果による統制、市場メカニズムの活用、顧客主義への転換、簡素な組織編成といった新公共経営（NPM）のアイデアを採用予定。<br>H25以降には、事業での取り組みを通じて、多様な当事者の「協働」と「共創」により地域課題を解決する『究極のふるさと再生策』の1つのモデル（手がかり）を示し、全国の中山間離島地域への普及を期待し地域間連携を目指す。 | ■収入計　4，771千円<br>＜内訳（単位：千円）＞<br>助成金4,771<br><br>■支出計　4，771千円<br>＜内訳（千円）＞<br>人件費2,814<br>報償費145<br>旅費1,200<br>需用費320<br>役務費66<br>通信費66<br>使用料等160 |
| 4 | 新しい公共による黒沢地区まちづくり事業 | ＜団体＞<br>黒沢地区まちづくり推進委員会<br>＜行政＞<br>浜田市三隅支所自治振興課<br>＜主な会議体構成団体＞<br>NPO法人あいの会、黒沢公民館 | 浜田市 | (1) 地域づくり人材育成<br>・地域づくりの核となるコーディネーター2名を雇用<br>・次年度に耕作する休耕田の選定、作業計画の策定<br>・新事業「薬草栽培による休耕地や里山の整備」<br>(2) 荒廃農地、里山整備<br>・地区内の1.4ha（全体5.8ha）を平成24年春より耕作開始予定<br>・上記の準備として農機具の借入れや有償ボランティア雇保のためのルールづくり、休耕田の草刈や水路の整備、荒起こしなどを実施<br>(3) 村のコンビニ整備<br>・事務所兼地域住民の居場所や有人野菜市とするため、地域の空き店舗を改装し「てご屋しんたく」を開設<br>・具体的な活動は、黒沢まちづくり事業協議会の「居場所づくり班」が中心となって実施<br>・地域住民の集いを順次開催<br>・地元商工会と買物対策や加工品づくりの検討 | ・「地域づくりを住民自らの手で」、という思いから始めた事業だったが、開始時期が遅かったこともあり、調査準備が主な活動となった。<br>・地域内での事業の浸透とともに助け合いの機運が高まり、「薬草栽培」という新しい事業へチャレンジも進めている。<br>・雇用したコーディネーターの業務に、当事業終了後も地域に定着していくために必要な起業を目指した活動を掲げており、地区としてもこの2年間で必要な基盤づくりをすすめ、継続していくためのNPO法人化を目指す。 | ■収入計　2，202千円<br>＜内訳(千円)＞<br>助成金　2,192<br>自己資金　10<br><br>■支出計　2，202千円<br>＜内訳（千円）＞<br>人件費1,160<br>研修費24<br>事務所等管理費462<br>リース代等（車両、農機具類）518<br>燃料費38 | 将来にわたって住み続けることが出来る、自立した地域を目指して、その基盤づくりを行う。<br>① 地域づくり人材育成<br>② 荒廃農地、里山整備<br>・雇用している2名のコーディネーターを育成し、地域住民との実践の中から農地や里山の保全と地域資源の活用の仕組みを作る<br>③ 村のコンビニ活用<br>・居場所として整備した「てご屋しんたく」を活用し、有人野菜市や漬物づくりなど地域のモノや知恵を生かし、生きがいが感じられる活動を展開する。あわせて、買物対策にも取り組み、黒沢ならではの「村のコンビニ」を目指す。 | ■収入計　6，361千円<br>＜内訳（千円）＞<br>助成金6,211<br>販売収入100<br>自己資金50<br><br>■支出計　6，361千円<br>＜内訳（千円）＞<br>人件費4,540<br>研修費100<br>事務所等管理費448<br>リース料等（車輌、農機具類）98<br>燃料費286<br>その他7 |

# 新しい公共の場づくりのためのモデル事業　H23実績及びH24計画一覧（2／2）



## ＜通常枠＞

| No | 事業名 | 事業主体 | | H23事業実績 | | | H24計画 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 協議体、行政、団体名 | 対象地域 | 内容 | 成果 | 事業費 | 概要 | 予算 |
| 5 | 共同受注・共同配送による買い物弱者支援事業 | ＜協議体名＞<br>ごようきき　三河屋プロジェクト協議会<br>＜団体＞<br>NPO法人まちづくりネットワーク島根<br>＜行政＞<br>松江市市民生活相談課<br>＜主な会議体構成団体＞<br>モルツウェル株式会社、株式会社みしまや、株式会社メディアスコー | 松江市 | 松江市雑賀地区公民館エリア（2,600世帯）をモデル地区に設定し、既存の「安否確認付き在宅高齢者配食サービス」のコールセンターをベースに、各種サービスの受付業務および集荷・配達業務を付加した取り組みの実施に向け、方法の検討、地元との調整、準備を行った。<br>①協議会運営事務局（NPOまちネット）<br>②受付センター設置及び運営（モルツウエル㈱）<br>③集荷・配達業務（モルツウエル㈱・㈱みしまや）<br>④調査業務（NPOプロジェクトゆうあい・㈱メディアスコープ）<br>⑤地域、市民、行政からの要望のとりまとめ、行政・法律解釈等の協働の窓口（松江市市民生活相談課） | ■モデル地区の自治会、公民館からは、「買い物支援は実施方法を誤ると、地域破壊につながる」との意見を受けたため、順序、取組方法等を考慮しながら慎重に進めることとした。<br>・モデル地区内協力業者のサービス内容、連絡先等を記載した壁貼り保存版ポスター（出前・配達・往診・タクシー地域業者掲載）を作成。<br>・商品パンフレットの品揃え・価格等の地域との調整。<br>・地域の仕入れ体制、配達体制・契約書について協議。<br>■地域との協力体制の確立<br>・雑賀地区自治会長、雑賀公民館長への趣旨説明、協力要請。<br>・雑賀地区社会福祉協議会会長、福祉推進員リーダーへの趣旨説明、協力要請。<br>・雑賀地区民生児童委員リーダーへの趣旨説明、協力要請。<br>※次年度（後期）からいよいよ受注を始める | ■収入計　3，935千円<br>＜内訳（千円）＞<br>助成金　3,935<br><br>■支出計　3，935千円<br>＜内訳（千円）＞<br>①協議会運営事務局（NPOまちネット）1,890<br>②受付センター設置及び運営等（モルツウエル㈱）1,520<br>③集荷・配達業務（㈱みしまや）157<br>④調査業務（プロジェクトゆうあい）210<br>調査業務（㈱メディアスコープ）157 | 松江市雑賀地区公民館エリア（2,600世帯）をモデル地区に設定し、既存の「安否確認付き在宅高齢者配食サービス」のコールセンターをベースに、各種サービスの受付業務および集荷・配達業務を付加した取り組みを実施する。また、モデル地区以外も採算性や効率性が良く可能なエリアから対象を広げる。（継続及び拡充）<br>①協議会運営事務局（NPOまちネット）<br>②受付センター設置及び運営（モルツウエル㈱）<br>③集荷・配達業務（モルツウエル㈱・㈱みしまや）<br>④調査業務（NPOプロジェクトゆうあい・㈱メディアスコープ）<br>⑤地域、市民、行政からの要望のとりまとめ、行政・法律解釈等の協働の窓口（松江市市民生活相談課） | ■収入計　10，044千円<br>＜内訳（千円）＞<br>助成金5,751<br>手数料収入4,293<br><br>■支出計　10，044千円<br>＜内訳（千円）＞<br>印刷製本費450、リース費780<br>通信費360、会議費120<br>調査費200<br>委託費<br>（事務局）2,132<br>（コールセンター）3,051<br>（配達）2,951 |
| 6 | さくらおろち湖周辺地域再生事業 | ＜協議体＞<br>尾原ダム地域づくり推進連絡協議会<br>＜団体＞<br>NPO法人さくらおろち<br>＜行政＞<br>雲南市ダム対策課<br>奥出雲町地域振興課<br>＜主な会議体構成団体＞<br>温泉地区ダム周辺地域活性化対策協議会、布勢地区尾原ダム活性化対策協議会、三沢地区自治会長会 | 雲南市<br>奥出雲町 | 大きく分けて3事業（景観整備・伝統文化・情報発信）を実施した。<br>・[景観整備]ダム湖周辺の登山道の除草、沿線のゴミ拾い、そして、ワカサギの放流を実施。<br>・[伝統文化]オロチ伝説講演会と現地めぐり、そして、地域伝統文化神楽の継承事業として深野神楽25周年記念事業のVTR収録と雲南神楽フェスティバルを開催した。<br>・[情報発信]は、HP[さくらおろち湖周辺を100%楽しむサイト]を開設、また、地元ケーブルテレビとタイアップして地域づくり活動番組3本、イベントスポットコマーシャル7本を製作した。 | 尾原ダムは平成24年度に完成することとなった。既にダム湖周辺においては「さくらおろち湖スポーツ競技施設（自転車・ボート）」が竣工して、自転車競技が始まっている。また、雲南市ではダムPR館を改修した合宿施設、奥出雲町では佐白温泉施設と三沢の館が年度内に完成する。<br>このようなハード事業が着々と整備される中、新しい公共の場づくりのためのモデル事業において、様々なソフト事業を展開したことで、ダム建設による集団移転から疲弊した地域に活気を呼び込んできた。<br>これからは、地域の大きな資源であるダムサイトと、古事記1300年に因む「オロチ伝説発祥の地」を活かして、点から線、そして面的な広がりを持った事業展開に結び付ける。 | ■収入計　3，760千円<br>＜内訳（千円）＞<br>助成金　3,760<br><br>■支出計　3，760千円<br>＜内訳（千円）＞<br>人件費619<br>印刷製本費43<br>諸謝金330<br>使用料101<br>委託費2,650<br>その他17 | 1. 環境整備事業<br>さくらおろち湖がパワースポットとなるように、周辺道路沿いの清掃、除草を地域住民と行う。<br>釣りスポットを目指し、引き続きワカサギの孵化・放流を行う。<br>2. 伝統文化伝承事業<br>ヤマタノオロチ伝説を学ぶため、講演会と現地めぐりを開催する。<br>園児から小学生が演じる「深野子供神楽」の公演会開催を支援し、後世に伝えるため記録VTRを制作する。<br>3. ダム周辺PR事業<br>H23に立ち上げたHP「さくらおろち湖周辺を100%楽しむサイト」を積極的かつ有効に活用する。<br>CATV番組で、引き続き密着型の番組作りと、地域イベントのCMを作ってPRする。 | ■収入計　3，158千円<br>＜内訳（千円）＞<br>助成金3,158<br><br>■支出計　3，158千円<br>＜内訳（千円）＞<br>人件費440<br>旅費591<br>印刷製本費60<br>諸謝金200<br>使用料160<br>委託費1,682<br>その他25 |

## ＜震災対応枠＞

| No | 事業名 | 事業主体 | | H23事業実績 | | | H24計画 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 協議体、行政、団体名 | 対象地域 | 内容 | 成果 | 事業費 | 概要 | 予算 |
| 7 | 東日本大震災被災者支援事業 | ＜協議体名＞<br>しまね東日本大震災被災者支援事業推進協議会<br>＜団体＞<br>出雲市総合ボランティアセンター運営委員会<br>＜行政＞<br>島根県環境生活総務課NPO活動推進室<br>＜主な会議体構成団<br>出雲市、県社協、出雲市社協、日赤島根県支部 | 被災地及び県内 | 1. 被災者支援、ミーティングの開催等<br>（1）県内支援<br>①県内避難者支援<br>②被災者支援・災害ボランティア活動イベント支援<br>（2）被災地支援<br>①災害ボランティア活動支援、②避難所支援、③現地NPO等との連携<br>2. 被災者支援活動の情報収集と発信<br>（1）現地調査<br>（2）支援活動の発信<br>3. 島根県の防災や災害時の連携協働体制の構築<br>（1）情報交換と連携<br>（2）島根県のボランティア・NPO等の県内外災害時支援活動の仕組づくり・人材育成 | ・東日本大震災後、被災者支援というミッションのもと個人、団体、企業、機関と問わず東日本大震災いずも支援チームとして支援ミーティングを重ねてきた。<br>・特に、民間（個人、団体、企業）のフットワークと柔軟性、行政（出雲市、島根県）の情報、社会福祉協議会（出雲市、島根県）のネットワーク、そして学校やコミュニティセンター（公民館）の地域力がそれぞれの強みを活かしながら協働することにより、単独ではなし得ない支援を行うことができた。<br>・この繋がりは東日本大震災への支援だけではなく、日頃からの防災活動や地域の課題解決にも波及している。<br>・今後、これまでの基本姿勢は崩さず被災された方々の立場にたって必要とされるところに支援をするとともに、震災を風化させず長期にわたり継続的な活動を続けていくことができるシステムを考えていく。 | ■収入計　4，770千円<br>＜内訳（千円）＞<br>助成金　4,770<br><br>■支出計　4，770千円<br>＜内訳（千円）＞<br>人件費1,946<br>謝金446<br>旅費1,814<br>通信運搬費211<br>消耗品費316<br>委託費36 | 被災者に対する支援として、ボランティア・NPO等の連絡会を開催し、協働による支援活動を展開する。そして、県内と被災地の両面から支援することで、被災者の立ち直りと被災地の復興に努める。<br>1. 被災者支援、ミーティングの開催等<br>（1）県内支援<br>①県内避難者支援、②被災者支援・イベント支援<br>（2）被災地支援<br>①災害復興ボラ活動支援、②仮設住宅支援<br>2. 被災者支援活動の情報収集と発信<br>3. 島根県の防災と災害時の連携・協働体制の構築<br>（1）情報交換と連携<br>（2）ボランティア・NPO等の県内外災害時支援活動の仕組づくり・人材育成<br>①ボランティアコーディネーター育成<br>②東日本大震災を教訓にした災害ボランティア・防災啓発 | ■収入計　5，230千円<br>＜内訳（単位：千円）＞<br>助成金5,230<br><br>■支出計　5，230千円<br>＜内訳（千円）＞<br>人件費2,445<br>謝金576<br>旅費800<br>滞在費400<br>印刷製本費400<br>通信運搬費200<br>消耗品費308<br>その他100 |
| 8 | 松江・島根・市民ネットワークによる震災支援事業 | ＜協議体＞<br>東日本大震災　松江・島根支援協議会<br>＜団体＞<br>松江地域振興予算ゼロ課<br>＜行政＞<br>松江市市民活動相談課　ホカ<br>＜主な会議体構成団体<br>島根NPO連絡協議会、島根県社協、松江市社協、企業ボランティア松江ネットワーク会議、島根県NPO活動推進室、 | 被災地及び県内 | (1)被災地に向けた継続的な支援（松江市・県下・県外組織）<br>・石巻市の水産加工業者が扱う缶詰の委託販売　など<br>(2)被災して避難で来られた方々に対する支援<br>・物品支援イベントを松江市と共同開催　など<br>(3)震災支援情報交換会、震災支援イベントの実施（松江市・県下）<br>・1月28日キックオフイベント<br>・3月11日「チドリの縁結びの輪プロジェクト」<br>(4)ポータルサイトによる支援の「見える化」と「ネットワーク化」（準備中）<br>(5)災害時の行政・市民連携による支援体制の再構築<br>(6)上記事業継続のための会議運営（松江市）<br>・協議会会議は採択後、事務局会議4回、協議会総会3回を実施<br>(7)紙メディアによるニュースレターの発行（松江市） | ・遠隔地に居ながらの支援の手ごたえを得た<br>・集中的なPRによって会の認知度と注目度を高め、継続支援への意識向上に貢献<br>・支援をしたい市民の窓口として機能<br>・松江・島根から出来る支援と松江・島根にしか出来ない支援にこだわる<br>・市民が「できる支援」を増やすために徹底した情報収集と、見つけやすい情報提供を<br>・被災者たちの自立のための経済活動支援も「工夫」を凝らす<br>・1日も早い「安心して暮らせる街」実現のネットワーク構築に協力する | ■収入計　2，272千円<br>＜内訳（千円）＞<br>助成金　2,272<br><br>■支出計　2，272千円<br>＜内訳（千円）＞<br>人件費970<br>旅費交通費630<br>情報サイト構築費300<br>印刷費32<br>イベント開催費250<br>研修費50<br>謝礼40 | (1)被災地に向けた継続的な支援（松江市・県下・県外組織）<br>(2)被災して避難で来られた方々に対する支援<br>(3)震災支援情報交換会、震災支援イベントの実施（松江市・県下）<br>(4)ポータルサイトによる支援の「見える化」と「ネットワーク化」（準備中）<br>(5)災害時の行政・市民連携による支援体制の再構築<br>(6)上記事業継続のための会議運営（松江市）<br>(7)紙メディアによるニュースレターの発行（松江市） | ■収入計　6，918千円<br>＜内訳（千円）＞<br>助成金6,918<br><br>■支出計　6，918千円<br>＜内訳（千円）＞<br>人件費3,660<br>旅費交通費1,610<br>情報サイト構築費600<br>印刷製本費228<br>イベント開催費500<br>研修費100<br>謝礼110<br>通信費60<br>郵送費50 |

<参考資料>

## 新しい公共の場づくりのためのモデル事業

# 活動紹介パネル

<目次>


隠岐ジオパーク戦略会議・・・・・・・・・・・・・・1～3

益田市市民活動推進協議会・・・・・・・・・・・・・4～6

海士町ソフトパワー創出推進協議会・・・・・・・・7～9

黒沢地区まちづくり推進委員会・・・・・・・・・・10～12

ごようきき　三河屋プロジェクト協議会・・・・・13～15

尾原ダム地域づくり推進連絡協議会・・・・・・・16～18

しまね東日本大震災被災者支援事業推進協議会・・19～21

# 隠岐ジオパーク戦略会議

## 事業名●ツアーコーディネーター養成による新たな観光形態と収入機会の創出

**事業概要**

申請中の世界ジオパークネットワーク登録に向けて、隠岐ジオパークの運営で中核的役割を担う組織および人材の育成と、組織の理念、活動状況等を情報開示するとともに継続的な活動を担保するための寄附付商品の開発等を通じたファンドレイジングへの取り組みを実施する。隠岐ジオパークガイド協会を設立し、ガイドの収入機会の創出を図る。

## 組織体制

### 隠岐ジオパーク戦略会議

**風待ち海道倶楽部**

平成15年に設立し、隠岐ならではの歴史・文化・自然を活かした地域づくりのため、官民一体となった取り組みを進めている。これまで、隠岐のガイドブック、ガイドマップの作成やイベントを開催し、隠岐ジオパーク活動の中心的役割を担っている。

**隠岐の島町教育委員会**

島根県および隠岐4ヶ町村の行政、経済団体などから構成される隠岐ジオパーク推進協議会の事務局を置いている。

**隠岐自然倶楽部**

隠岐地方全域を対象として、各自然分野の調査研究や自然環境の保全・保護とそれらを活用したエコツアーガイドに取り組んでいる。島根県や環境省との協働事業により、隠岐の自然を守るための参考書の作成や、遊歩道の看板整備、オキサンショウウオの調査、外来種調査、カラスバト調査、海岸ゴミ清掃事業なども行っている。

**島後とぎの会**

西郷港周辺を主要なフィールドとして、「語り部」や「まち歩きガイド」などに取り組む任意団体。当初は旅館やホテルに出向き隠岐の歴史や文化をお話しする新しい観光サービスの提供を行っていたが近年は西郷港周辺の町歩きや観光ガイドも行っており、専門性の高い歴史ガイドやジオパークガイドとして観光振興の一翼を担っている。

**株式会社ワコムアイティ**

1993年に島根県企業立地促進条例認定企業として創業。システムインテグレーションを中核として、タブレットを利用したペンソフトウェアの開発や多様なコンテンツ制作、製品開発等に取り組む。近年は話題のRubyによるシステム開発も行ない、農業や環境、医療などの分野にも進出している。特に養牛カメラ等は注目を集める。社是は「喜びの創造」。

**隠岐汽船株式会社**

隠岐諸島と本土を結ぶカーフェリーおよび高速船航路を運営している隠岐の海運会社。最盛期には本土側が境港・七類・加賀の3港、隠岐側が西郷・別府・浦郷・菱浦・来居5港でフェリー3隻と超高速船2隻の体制であったが、現在は加賀港と浦郷港の航路は無くなりフェリー3隻、超高速船1隻で運航している。

**社団法人隠岐の島町観光協会**

以前は任意団体としての隠岐の島町観光協会であったが、2007年（平成19年）に、社団法人格を取得し、隠岐の島町の観光振興を担うために再スタートを切った。現在は、有償ガイド養成講座、体験型観光商品の企画等に取り組んでいる。

**株式会社藤井基礎設計事務所**

技術力を企業成長の原点と位置づけ、近年は多様な事業展開を図っている。隠岐の島では、里山・里海の再生を目的とした木質バイオマスの実験プラント運営、隠岐ジオパークの推進とサポートなどに取り組むとともに、地域住民組織と一体となって地域振興をサポートする。

OKI Islands Geopark
隠岐ジオパーク

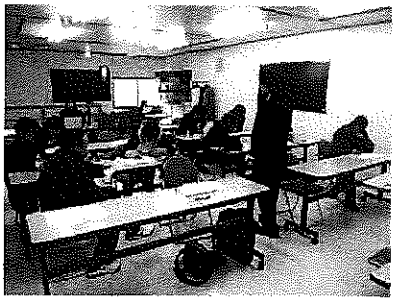
［連絡先］
**隠岐ジオパーク戦略会議**
TEL 08512-3-1005
Mail: geopark-sk@mirror.ocn.ne.jp
URL http://blog.canpan.info/okigeo/

# 隠岐ジオパーク戦略会議

## 事業名●ツアーコーディネーター養成による新たな観光形態と収入機会の創出

### 事業概要①

### 1．自主財源確立に資する事業



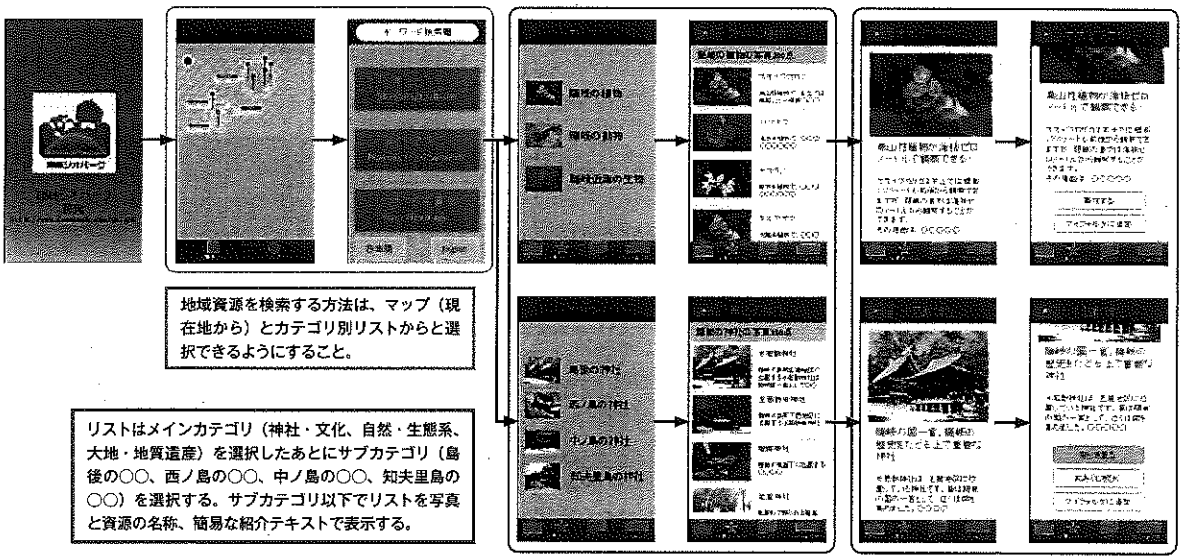
①ソーシャルアプリ（寄付付き商品として）の開発、販売
- 寄付付きソーシャルアプリ（隠岐の神社図鑑：仮称）開発、販売
- 金額のうち一定額をジオパーク内資源の保全活動にのみ充当する

②ファンドレイジングに関する勉強会の開催

③会計情報等の公開
- 組織運営に関する会計情報等適正な運営状況を県のポータルサイトやCanpanブログ等を活用し公開する。

④隠岐ジオパークファン倶楽部（仮称）の会員募集
- これまで隠岐に来たことのある顧客を対象として、「隠岐ジオパークファン倶楽部」会員を募集する
- 会員には会報誌を発行し、隠岐ジオパークの様子を定期的に情報発信する

#### ソーシャルアプリ開発イメージ図



地域資源を検索する方法は、マップ（現在地から）とカテゴリ別リストからと選択できるようにすること。

リストはメインカテゴリ（神社・文化、自然・生態系、大地・地質遺産）を選択したあとにサブカテゴリ（島後の○○、西ノ島の○○、中ノ島の○○、知夫里島の○○）を選択する。サブカテゴリ以下でリストを写真と資源の名称、簡易な紹介テキストで表示する。

カメラ機能と連動し、本アプリで撮影した写真は「隠岐ジオパークフォルダ（仮称）」等に格納され、隠岐訪問後も振り返りができるように配慮すること。動画等はYouTubeを活用することとする。
隠岐は必ずしもネットワーク環境が整備されておらず、オフラインでも楽しめるようにダウンロードする段階である程度のコンテンツはアプリ内に格納しておくこと。
多言語への対応ができる基盤とし、順次追加対応できる設計にすること。
Facebook、Twitter等ソーシャル・メディアとの連動する機能を取り入れること。

自然・生態系の詳細画面には「寄付」へと誘導する仕組みを導入すること。神社・文化の詳細画面ではGPSを利用した「位置ゲーム」などを導入すること（位置ゲームは課金後の開放機能とする）。
その他魅力的な提案は協議の上追加等検討する。

スマートフォン、タブレット端末アプリを開発し、提供する。OSはiOSおよびAndroidに対応するものとする。アプリと連動するデータサーバは別途指示する。

アプリは基本的に無料でのダウンロードとするが、無料版を「Lite版」として提供する。「完全版」は課金することで一部機能を開放（位置ゲーム、広告消し）することでコンテンツの差別化を図る。

コンテンツ内には、「隠岐ジオパークの資源・自然保護」に使途を限定することを明示した上で、寄付行為へとつなげる動線を確保する。

著作権は隠岐ジオパーク戦略会議に属するものとする。また著作人格権は行使しないものとする。

本仕様書に明記のない事項については別途両者で協議してすすめる。

# 隠岐ジオパーク戦略会議

## 事業名●ツアーコーディネーター養成による新たな観光形態と収入機会の創出

### 事業概要②

### 2. ガイド協会機能の育成に資する事業

①ツアープログラムの造成

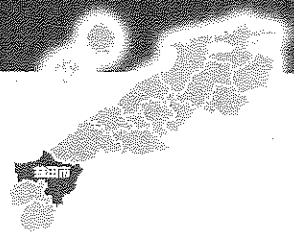
- 旅行代理店を交えた魅力的なプログラム造成、旅行者ニーズ等についての研究会を開催する（複数回実施）
- 四季に応じた体験学習型メニュー造成
- 雨天時に楽しめるメニュー造成
- オンラインワークショップの企画・実施

②認定ガイド制度の導入

- 知識、ガイドスキル（コミュニケーションスキル）等に基づく有償ガイドの基準を検討
- 評価および判定基準を検討する
- 認定ガイド試験問題の作成
- 基準に基づく試験を実施、認定ガイド輩出

③ソーシャルメディアを活用した情報発信

- Facebook、Twitter等ソーシャルメディアを活用した情報発信を行う
- 共感、支援の環を広げるためのツールとして活用を図る




# 益田市市民活動推進協議会

## 事業名●テーマコミュニティとエリアコミュニティの融合による新しい支えあいの仕組みづくり事業

**事業概要**

地域が抱えている様々な課題を、NPO法人や社会福祉法人等専門的な知識を有する「テーマコミュニティ」と地区振興センターや自治会等で形成される「エリアコミュニティ」の2つの側面から捉え、両者の融合による地域課題解決のための新しい支え合いの仕組みを構築する。

## 組織体制

### 益田市市民活動推進協議会

**高津川大学**

高津川流域の各参加団体・個人がネットワークを構成し、高津川を核として歴史・文化的遺産の継承・発展を図る。さらに河川の景観や環境等さまざまな情報の発信によって人々が誇れる河づくりや高津川の良さを社会に広め、高津川を中心とするより豊なくらし、まちづくりを目指す。

**益田市保育研究会**

益田市内認可保育所の職員で構成する団体で、会員の研修や研究活動を行うとともに、児童福祉の推進を図ることを目的に、幅広く子育て支援活動等を行っている。平成20年度しまね協働実践事業「だれもが安心して育ち育てることのできる地域づくり事業」では、児童虐待が生じるリスクが高いといわれる「障がい児を育てる家庭」「外国人の親家庭」「一人親家庭」の不安感・負担感の軽減を目的にした講演会や親子交流及び親同士の交流の場づくりなどに取り組み、それらの活動は現在も継続実施しており、平成22年度"こっころ大賞"を受賞している。

**益田まちづくりネットワーク**

市内各地で、いろいろな分野でさまざまな活動を展開している団体や個人が、それぞれ特色ある、活動の情報交換を行い、人と人の互いの緩やかな横の連携を図って、魅力あるまちづくりを楽しく進めていくことを目的とする。

**NPO法人 アンダンテ21**

アンダンテ２１はこれまで、まちづくりを進める団体として、地域活性化の学習会や高津川を取り巻く環境の意識啓発、さらに行政への提言などを行ってきました。会員相互の協力と自立性を保ちながら、そしてなによりまちづくりを楽しみながらの活動を通して、住民や関係機関との協働作業も拡大してきています。こうした中で、組織活動の継続性を高めるために法的・財政的な強化を図り、公益の一層の増進に寄与できるNPO法人として、誇れるわが街づくりをめざします。

**NPO法人 コアラッチ**

あらゆる地域のひとに対して、環境と次世代育成に関する事業を行い、社会に寄与することを目的として活動している。

**益田市 経営企画部地域振興課**

地域振興課は、自治会やNPOなどの市民活動の支援、地区振興センターの設置、中山間地域対策、定住の推進、公共交通機関の利用促進、防災等の対策や市民の生活安全など幅広い分野を所管している。
特に自治振興に必要な施策として、地区振興センターの取組みの推進と市民活動団体の支援は重要と考えている。

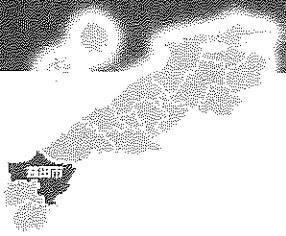
**連携**

**益田市地区振興センター**

20地区振興センター

- 益田地区振興センター
- 吉田地区振興センター
- 高津地区振興センター
- 安田地区振興センター
- 鎌手地区振興センター
- 種地区振興センター
- 北仙道地区振興センター
- 豊川地区振興センター
- 真砂地区振興センター
- 西益田地区振興センター
- 二条地区振興センター
- 美濃地区振興センター
- 小野地区振興センター
- 中西地区振興センター
- 東仙道地区振興センター
- 都茂地区振興センター
- 二川地区振興センター
- 匹見上地区振興センター
- 匹見下地区振興センター
- 道川地区振興センター

[連絡先]
**益田市市民活動支援センター　スマイルデスク**
TEL 0856-23-7708
Mail: smile@maro-v.jp
URL http://smiledesk.exblog.jp/



# 益田市市民活動推進協議会

## 事業名●テーマコミュニティとエリアコミュニティの融合による新しい支えあいの仕組みづくり事業

### 事業概要

#### 「寄付の教室」事業（益田市市民活動推進協議会）

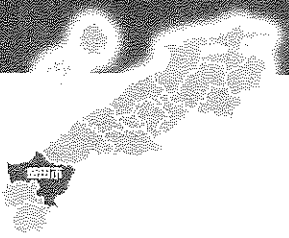
寄付という手段を活用して、地域コミュニティを支える社会的・公益的な活動を展開する団体（以下「NPO等」という。）の存在を周知することと同時に、子どもたちに出来る社会との関わり、社会性について学習してもらう。

#### 地産地消の保育所給食事業（益田市保育研究会）

- 地域の農業生産力を高めるとともに、やりがいの感じられる生産を可能にする。
- 子どもたちが保育所給食で健康に育ち、親が安心して子育てできる地域づくりをする。

#### レジ袋削減活用プロジェクト（NPO法人コアラッチ）

レジ袋の無料配布中止に伴う事業所の利益を環境活動に還元してもらえる仕組み作りを構築する。



# 益田市市民活動推進協議会

## 事業名●テーマコミュニティとエリアコミュニティの融合による新しい支えあいの仕組みづくり事業

## 事業成果、目指すところ

### 現在までの成果

#### 益田市市民活動支援センター　スマイルデスク開設

これまで無人であった、市民活動支援センターに益田市市民活動推進協議会から派遣するサポートスタッフを配置し、行政との協設協営によるＮＰＯ団体の活動支援を推進。市民活動の拠点となるべく、協働事業を進行中。

その中のひとつ、「寄付の教室」では、寄付という手段を活用して、地域コミュニティを支える社会的・公益的な活動を展開する団体（「ＮＰＯ等」）や、ボランティア活動などについても様々な形で周知できた。これからを担っていく子供たちが、「自らが社会の役に立つかけがえのない存在である」ことを伝えることがでたとともに、協議会としても寄付という題材のスキルアップにつながった。

### 将来、実現したいこと

- 2年間でエリアコミュニティとテーマコミュニティの協働モデル事業を構築し、3年目以降はそのモデル事業を活用・応用し、他地域でも展開することにより事業継続性を担保する。
- また、NPO法人のスキルアップを図り、団体個々の強化を図ると共に、複数の団体が連携した教育プログラムを構築することで、より効果的に事業収入を得ていく。
- 市民活動支援センターに配置するサポートスタッフの育成により、より高度な課題解決についてもマッチングさせ、チャレンジしていく。

# 海士町観光協会／海士町ソフトパワー創出推進協議会

## 事業名●島の「新しい公共」を担うソフトパワー創出事業

## 事業実施体制

事業実施体制（事業主体、マルチステークホルダーの概要）

**海士町ソフトパワー創出推進協議会**

構成団体：㈱潮風ファーム、㈱隠岐牛企画、岩ガキ生産㈱、㈱但馬屋
ＮＰＯ海士人、隠岐國商工会（ハーン商店街）、海士町など

## 事業概要

『島基準』による島ならではの人材育成を島まるごとで事業展開することにより、多様な当事者の協働と共創環境である「新しい公共の場」を推進するソフトパワーを創出し、高齢化した島内事業者の後継的人材育成を図り、地域の活性化を目指す。

**主な取組み**
- 島基準の策定及び実践事業
- 地域通貨社会実験事業（ステージⅡ）
- 新しい公共人材拠点形成事業〔観光協会法人化事業〕

○協議会は定例会議を月毎に実施　　○各取組みの関係者とは随時協議を実施

**【地域の特殊性（与件）】**
日本海上に浮かぶ、人口2400人程度の小さな離島。
第１・２次産業を中心とする半農半漁のライフスタイルが一般的。

**【積み重なる地域課題】**
- 人口の減少
- 高齢化
- 若年層の流出
- 後継者不足
- 公共事業依存
- 経済の衰退
- 地域の危機

……

地域の特性を無視したものや、短期的な取組みでは課題解決に至らない！

**経済・産業分野の懸案事項〔緊急課題〕**
- ポスト公共事業を担う新産業
- 事業者の高齢化、後継者不足
- 雇用のミスマッチ
- 所得、消費低迷（島外流出）

必要な取組み・方向性（理想）

○観光事業の「産業」化
○島の経済を支える担い手（多様な現場に対応する労働力や後継的人材）の育成・派遣、通年雇用の実現
○地域マネーの善循環と消費拡大

**理想を現実に近付けるための「仕組み」化 ＋ 地に足をつけた取組みと連繋プレー**

●島内の観光商品・サービスの質的水準の向上
→多様な事業者間で最低基準の共通化と、協働して改訂・改善していく環境
●個々の事業者や行政では扱いきれない、ソフトパワー連携と創出を担う強力な人材拠点・中間支援組織の存在
●経済・社会・環境へ貢献する仕組みづくり

**具体的な取組みとして**
①島基準の策定、②地域マネーの循環、③継続組織体制の構築、が重要となる。

**《事業計画の指針》**

1）地域における多様な利害関係者が協働・共創して地域課題を解決する環境（＝新しい公共の場）を具体的な「仕組み」として作り出す
2）「千里の道も一歩から」……悪循環を善循環に変えていくのは、日々の具体的な小さな成功と相互理解の積み重ねであることを関係当事者で共有する

海士町ソフトパワー創出推進協議会では、「新しい公共」宣言（内閣府）にも謳われているように「すべての人に居場所と出番があり、みなが人に役立つ歓びを大切にする社会であるとともに、その中から、さまざまな新しいサービス市場が興り、活発な経済活動が展開され、その果実が社会に適正に戻ってくる事で、人々の生活が潤うという、よい循環の中で発展する社会」を『'ひと'が主役となる"新しい観光"』の本質として捉え、上記の指針を事業の基軸に据える。

*ミッキーマウスの活躍に目を奪われず、ミッキーマウスが活躍するディズニーランドの仕組みに着目せよ*

［連絡先］
**海士町観光協会**
電話 08514-2-0101
メール info@oki-ama.org
URL http://www.oki-ama.org/

［連絡先］
**海士町ソフトパワー推進協議会事務局**
（海士町観光協会内）
URL http://www.oki-ama.org/harn

# 海士町観光協会／海士町ソフトパワー創出推進協議会

## 事業名●島の「新しい公共」を担うソフトパワー創出事業

## （1）「ぼくらの島基準」策定＆実践事業

～よりきめ細やかで質の高いおもてなしを目指して～

**【事業実施状況】**

○「島基準」の策定及び各種取組み
- 観光関連事業者と協働で各種もてなし研修の実施（随時）
- 観光関連施設（民間宿泊施設、商品販売店舗等)のスタッフ派遣、マニュアル化
- 人材派遣テストケース実施（９月～）　※新規取組み
- 観光協会ホームページへの反映　⇒　http://oki-ama.org　（９月17日リニューアル）

○「島の料理長」採用活動の展開

８月～９月　料理長の新規の採用　（８月末着任）～９月末都合により離任

10月　料理長の再度の採用

**【今後の展開】**

| H21年度 | H22～23年度 | H24年度 |
|---|---|---|
| ○離島キッチン事業<br>（「旅市」－ＳＲＢ実践ＰＪ） | ○島旅<br>○島のガイド<br>○島の女将<br>**○島の総料理長** | ○一般社団法人設立<br>〈事業の本格化・継続化〉<br>○離島をつなぐ外商販売<br>○「島の観光」商品造成と旅行業の展開<br>○人材派遣事業の展開 |

「島基準」の策定と実践、協働・共創による改善の普及

「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」（島根県）

## （2）「地域通貨」社会実験事業

～島ならではのコミュニティファンドの形成に向けて～

**【事業実施状況】**

○地域通貨ＰＪ会議の実施

→地域住民・公民館、商工会、観光協会、役場等が協働し、より良い制度設計に向けて理想と現実、実務面で知恵を絞り合う。

| 日　付 | 会議（中心テーマ） |
|---|---|
| ８月３日 | 第１回ＰＪ会議「振り返りとステージⅡに向けて」 |
| 10月12日 | 第２回ＰＪ会議「公的通貨として明確な制度設計を」（Ａ案） |
| 10月21日 | 第３回ＰＪ会議「ハーン＝藩札論と今後の展開」（Ｂ案） |
| 12月22日 | 第４回ＰＪ会議「提案採択と魅力あるハーン制度の協働構築へ」 |

○「地域通貨暮らし体験」の実施（１年間、10月～）

⇒ブログ公開　http://amanodaichan.blog.fc2.com　（10月20日）

【今後の展開】ラフカディオ・ハーン来島120周年を記念したシンポジウムの開催等を予定

# 海士町観光協会／海士町ソフトパワー創出推進協議会

## 事業名●島の「新しい公共」を担うソフトパワー創出事業

## （3）観光協会法人化（人材拠点形成）事業

～ソフトパワー連携と創出を担う強力な中間支援組織の確立～

**【概要】**

- これからの「新しい公共」や「島の新しい観光」における観光協会が果たすべき使命と役割を捉え直し、相応しい組織形態に変える。
- 収益を地域社会へ再投資する法人類型や制度を採用し、公益的使命の達成と健全な収益体質の構築を目指す。
- 行政の補助に依存したその場限りの投機的事業や一時的な人の集合体ではなく、継続企業を前提として、地域に根ざした人材・組織づくりを目指す。

**【実施状況】**

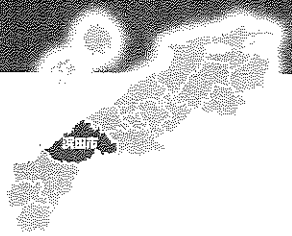
8月～

○現在の観光協会の各部門において、法人事業を意識した事業編成の見直しや、公益への貢献と採算ラインの確保の見きわめ等、法人設立手続きを踏まえて総合的な取組みを進めている。

### ◎「海士町見学」参加者募集

***海士町の新戦略、ソフトパワーの本質とは？***

***“ひと”が主役となる「新しい公共」を体験できる 2泊3日の旅***



# 黒沢地区まちづくり推進委員会

## 事業名●新しい公共による黒沢地区まちづくり事業

**事業の目的**

耕作放棄や荒廃が進む農地と里山の保全に取り組み、地域づくりの基盤となる人材育成と地域資源活用の仕組みを構築し、将来にわたって住み続けられる地域をめざす。

## 組織体制

### 黒沢地区まちづくり推進委員会

**黒沢地区まちづくり推進委員会**

概要 平成21年2月設立。地区内の自治会、NPO及び各種団体等の代表者で組織し、住民自治の推進と地域の社会環境の向上を目指して活動している。

役割 各種団体、組織間の調整、連携をすすめ地区の主体組織として智恵を結集し実践にあたる。

**浜田市三隅支所自治振興課**

概要 合併前の旧三隅町時代からコミュニティ施策に重点を置き事業展開してきた。

役割 職員の地域担当制度による助言、支援や事業実施にあたって関係機関との連絡、調整の役割を担う。

連携

**黒沢地区自治会**

概要 地区内各地域の住民自治組織。会員の減少が進む中、地域コミュニティの維持活性化と地域課題の解決に取り組んでいる。

役割 地区内の自治会が連携し協力して推進する。

**黒沢公民館**

概要 地区の社会教育拠点である公民館において、生涯学習の推進のみならず、地域づくり事務局、行政の窓口として住民票等の証明、交付手続きなど、住民の利便性向上のサービスも行っている。

役割 黒沢地区まちづくり推進委員会の事務局として、事業推進を支える。

**NPO法人あいの会**

概要 平成14年にNPO法人設立。福祉活動の分野で事業展開し、現在は年間予算9千万円、約40人を雇用する事業所となった。

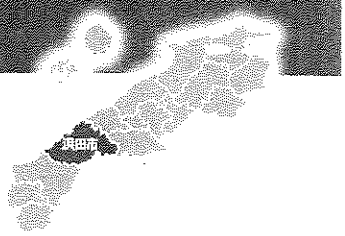
役割 事業推進や運営にかかるノウハウの提供を行う。

**コワ温泉**

概要 平成19年に地区内で営業開始した温泉施設。食事や宿泊等のサービスを提供している。地域一体となった施設を目指している。

役割 地域の野菜、加工品を持ち込んだ定期的な野菜市を開催しており、連携した取り組みを行うことにより、相互の向上も期待できる。

[連絡先]
黒沢地区まちづくり推進委員会
TEL 0855-35-1509
Mail: kurosawa-k@ofc.herecall.jp
URL http://matizukuri.herecall.jp/kurosawa/



# 黒沢地区まちづくり推進委員会

## 事業名●新しい公共による黒沢地区まちづくり事業

### 事業概要

**（1）地域づくり人材育成**

地域づくりの核となる人を2名雇用、育成し地域とのつながりの中から様々な地域資源を活用して、次の（2）（3）の事業を進める。

**（2）荒廃農地、里山の整備**

後継者のいない田畑を機械ごと借りて農作業し、作物を加工し付加価値を加えるなど、荒れる里山の復活も含めて様々な活動を行い事業所につなげていく。

**（3）村のコンビニ整備**

事務所兼"村のコンビニ"を作り、その場所を同時に、高齢者の"居場所"や、「有人野菜市」にして、買い物に困っている人たちの解決策や生きがいづくりの場所を目指す。
経験豊富な知恵を結集し、その場所で販売する地域産品の加工品等開発を行う。

### 黒沢まちづくり事業協議会の会議

**地域を良くしようとするアイデアや議論は尽きません。とにかく話し合おう！**

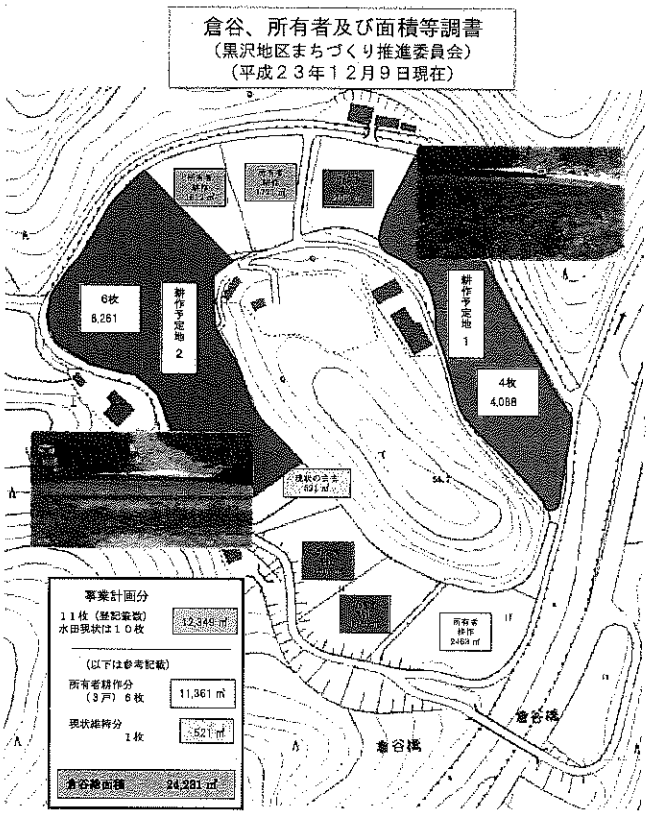
### 空き店舗の整備改修

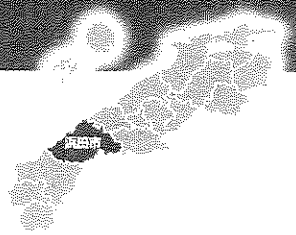
**事務所兼村のコンビニとして整備中。経験豊富な地元の知恵を結集し、次の世代へ引き継ごう！**

「てご屋しんたく」の外観

### 未耕作地の調査と事業計画

**4月からの耕作予定地です。未耕作農地が地区全体に5.8haもあります。頑張って復元するぞ！**





# 黒沢地区まちづくり推進委員会

## 事業名●新しい公共による黒沢地区まちづくり事業

## 事業成果、目指すところ

### 現在までの成果

**（1）地域づくり人材育成**

平成24年1月から2名を雇用。地域へ出向き育成中。

**（2）荒廃農地、里山の整備**

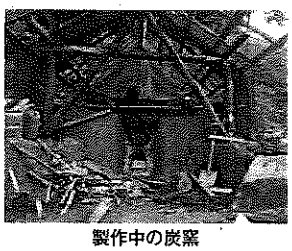
平成24年4月以降の耕作計画の準備及び里山整備のニーズ調査中。

**（3）村のコンビニ整備**

昨年末に旧店舗施設改修完了。施設名称を「てご屋しんたく」と命名。高齢者の集いを開催予定。

＊**てご屋しんたく**：石見地方の方言で手伝うという意味「てご」と旧店舗の愛称であった「しんたく」を組みあわせた、地域で一番愛着を感じる名称とした。

黒沢地区のためにガンバります！



製作中の炭窯

### 将来、実現したいこと

地区の皆さんが抱いていた「今のうちに何とかしなければ一層さびれる黒沢になるヨ！」という不安が、事業実施による地区内の連携の深まりと、受け継ぐ人材の育成とあいまって少しずつ払拭されてきている。この２年間で、事業起こしの基盤づくりをしっかり行い、事業終了後にＮＰＯ法人化し体制を継続することで、いつまでも住み続けられる地域を目指していきます。

# ごようきき 三河屋プロジェクト協議会

## 事業名●共同受注・共同配送による買い物弱者支援事業『ごようきき 三河屋 プロジェクト』

モデル地区：松江市雑賀地区公民館エリア約2,600世帯

## 事業の目的

高齢者や障がい者、その介助者、また小さな幼児を抱える母親等への買い物支援をはじめとする諸サービスの提供を民間が行うことで、介護保険や行政サービスでは対応が不可能なこと、または、対応が不完全になることを補完できる可能性が広がることで、都市部はもとより郡部においても「暖かみ」ある、食と買い物のライフラインの保全を中心に、安心安全な地域生活に貢献することを目的とします。

また、採算性の悪化に苦しみ撤退・廃業を余儀なくされる地元中小零細企業の協力と連携を目指し、販売および物流機能の集約化、効率化を図り地域経済の活性化に繋げ、地域社会への貢献を目指します。

## 組織体系

### ごようきき 三河屋 プロジェクト協議会 構成員

NPO法人 まちづくりネットワーク島根
理事長 山本　謙（三河屋PJ事務局）

NPO法人プロジェクトゆうあい
理事長 三輪　利春

株式会社メディアスコープ
代表取締役 中尾　禎仁

株式会社みしまや
代表取締役 三島　隆史

モルツウェル株式会社
代表取締役 野津　積（三河屋PJ会長）

松江市市民部　市民生活相談課・・・・
市民活動推進係、伺います係

［連絡先］
一買いものたすけ愛一ごようきき三河屋プロジェクト協議会
〒690-0012松江市古志原5-2-43
（NPO法人　まちづくりネットワーク島根内）
TEL 0852-20-1821　FAX 0852-23-3315

# ごようきき 三河屋プロジェクト協議会

## 事業名●共同受注・共同配送による買い物弱者支援事業『ごようきき 三河屋 プロジェクト』

### NPO法人 まちづくりネットワーク島根　理事長 山本　謙（三河屋PJ事務局）

平成15年5月に設立し、「後世に伝えるまちづくりをみんなの手で！」を合言葉に、安心安全な食の自給のためと、荒廃農地削減のために「まちネット市民農園」の運営や「高齢者向けパソコン教室」、非常用ボタン付火災報知器（緊急出動あり）「セーフティーホーム24」、エコ活動のポイント化「山陰共通エコポイント」等の普及活動及び利用促進活動をしています。会員数：35名
（会議体事務局、本事業の会計、事務局としての対外交渉、協力会社の募集契約）

### NPO法人 プロジェクトゆうあい　理事長 三輪　利春

平成16年7月に設立し、障がい者・高齢者の皆様など何らかのハンディキャップを持つ、すべての人に対して情報化社会に参加できる情報化環境の推進や、自立して自由に、かつ豊かに暮らせる生活環境の実現、さらに環境保全に寄与することを目的とし活動しています。視覚障害者向け音声データデイジー形式の松江市広報誌作成技術あり。会員数：37名
（視覚障害者向け音声カタログをはじめ、障がい者等からのサービス受付方法やサービス内容の意見調査、利用者への広報と説明）

### 松江市市民部　市民生活相談課　市民活動推進係、伺います係

町内会・自治会連合会（28地区）事務局であり、月1回の会議を開催し地域の問題点を集約。また、伺います係では市民からの困りごとをワンストップで受付、要望の集約や解決をすすめます。役所の管轄と民間の問題の間にいます。他部署への連携窓口として協働します。
（地域、市民、行政からの要望のとりまとめと、行政・法律解釈等の協働の窓口）

### モルツウェル株式会社　代表取締役 野津　積（三河屋PJ会長）

「ほっかほっか亭」FCとして平成8年に創業し、現在では「安否確認付き在宅高齢者配食サービス」松江市橋北地区指定業者となる。店舗：4店舗、工場：1ヶ所、本社：松江市、営業所：米子市・神奈川県大和市・大阪市、従業員数：180名（パート含む）
国が推進する在宅高齢者自立支援サービス事業として注目される安否確認付の配食サービスやグループホーム、サービス付き有料老人ホーム等介護施設への給食事業をメインに行なっています。独自のクックチル再加熱システムを用い、大手企業が手を出しづらい市場で「味」「冷蔵（バリエーション）」にこだわった自社一貫生産する食品を365日、年中無休対応し、全国36都道府県、400施設と直接契約し全国の高齢者様から高い支持をいただいています。
（コールセンター運営、集配場所、配達、広報等）

### 株式会社みしまや　代表取締役 三島　隆史

スーパーマーケットみしまやを事業主体として昭和24年12月設立。店舗数：15店舗（松江市内14店舗）従業員数：409名（パート含む）日本一の高齢化地域であることをふまえ、ご来店が困難な方を対象に電話配達"ご自宅お届け便"を始めました。現在の対応エリアを新松江市内へそして、全市をカバーできる目標に向けて活動中です。また、皆様の善意を世界の恵まれない方々に役立てようと、家庭で眠っている物を生かす"ふれ愛ショップ"を開催しています。
（集配場所、配達、広報等）

### 株式会社メディアスコープ　代表取締役 中尾　禎仁

平成19年10月に設立し、平成20年から平成23年3月まで実施した「島根ユビキタスプロジェクト」におけるデジタルサイネージ、ICカード（ライフログ）、電子マネー等の実証実験の経験を活かし、「あいポケット」ICカードの普及情報発信の構築を目指し、格差社会・少子高齢化等で変化する地域社会に貢献いたします。
（電子決済調査、電子カタログ調査、ホームページカタログ調査、IT関連による効率化提案）

# ごようきき 三河屋プロジェクト協議会

## 事業名●共同受注・共同配送による買い物弱者支援事業『ごようきき 三河屋 プロジェクト』

## ごようきき 三河屋　PJの流れ

**モデル地区**
雑賀地区（2,600世帯）

買い物難民・独居老人・身体障害者
買い物支援
弁当配食支援
困りごと相談

注文 ↔ 出前

**地域の商店**
受注
出前

デイジーによる買い物情報

注文

配達

配達と同時に行う作業
☆個人の安否確認
☆困りごと
☆受注（次回訪問時配達）

**外部協力団体**
地域公民館
社会福祉団体
地域民生委員

**PJ連絡協議体**
NPO法人　まちネット
モルツウェル㈱
㈱メディアスコープ
㈱みしまや
NPO法人 ゆうあい
松江市市民相談課

**受付センター**
NPO まちネット
モルツウェル㈱

発注 →

**㈱みしまや**
受注した商品の
取りまとめ
協力・加盟店募集中

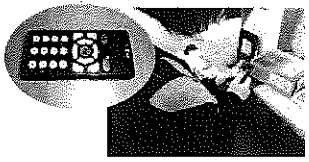
← 受取り

**配食センター**
注文した商品の受け取り
各戸配達サービス
管理：モルツウェル㈱
協力・加盟店募集中

**視覚障害者用「デイジー」による商品案内**
みしまや→商品情報→NPOプロジェクトゆうあい（変換）→視覚障害者へ発進→受付センターへ注文
管理：プロジェクトゆうあい・㈱メディアスコープ

### 取組①

**視覚障害者への買物情報発信**



### 取組②

**『雑賀地区買いものたすけ愛』壁張用A2ポスター戸別配布**

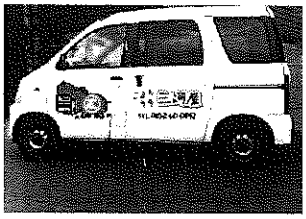
地区内事業所を第一に利用しようと配達・ごようきき・往診できる事業所サービス内容等の一覧表と『ごようきき三河屋買い物代行サービス』のポスターを作り、雑賀地区内の全家庭に配布します。

### 取組③

ごようきき活動を戸別訪問をして、宅配お弁当や食料品の買い物代行サービスを展開し、安否確認などを含め地域の安心と安全の確保に努めます。

河馬（カバ）をキャラクターとしたロゴマークの完成。一般的に「おとなしい」印象のカバ。実はとても強くて足が速い（俊敏）というカバの特徴からキャラクター設定。

ロゴ入りスタッフジャンパー。テーマカラーのオレンジは「食欲増進」「美味しいイメージ」から決定。

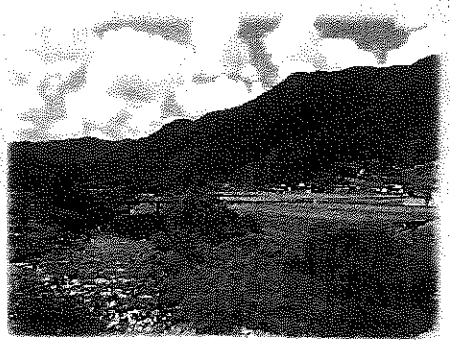


ロゴ入り配達車両「ごようきき三河屋号」が街を走ります。

～尾原ダム地域づくり推進連絡協議会～ プロジェクト

# さくらおろち湖周辺地域再生

事業の目的：ダム湖周辺が行政の垣根を越えて結束し、ダム建設に伴い疲弊した地域に活力がよみがえる事業を展開する。



↑雲南市・奥出雲町をまたぎ、完成間近の「尾原ダム（ダム湖名：さくらおろち湖）」この周辺地域が、今回の事業の舞台です。

## 組織・体制

尾原ダム地域づくり推進連絡協議会
- NPO 法人さくらおろち
- 島根県土木部斐伊川神戸川対策課
- 雲南市政策企画部ダム対策課
- 奥出雲町地域振興課

連携

- 温泉地区ダム周辺地域活性化協議会
- 布勢地区尾原ダム活性化対策協議会
- 三沢地区自治会長会

（いずれも地元住民による、地域づくり推進のためのグループ）

**尾原ダム地域づくり推進連絡協議会**…尾原ダムを活用した地域づくりを一体的に推進する団体で、平成22年2月に設立。さくらおろち湖周辺の地域づくりへの企画立案や島根県・雲南市奥出雲町の連絡調整役を担う。

**NPO 法人さくらおろち**…尾原ダムを中心とした地域づくりをさらに推進していくために、平成23年3月に設立。行政・地域・民間団体のニーズを掴み、さくらおろち湖周辺の地域づくりのための事業を実施していく。

連絡先：NPO 法人さくらおろち tel:0854-48-0729 mail:sakura-o@bs.kkm.co.jp
住　所：島根県雲南市木次町平田779-1 温泉高齢者活動促進施設内

～尾原ダム地域づくり推進連絡協議会～

# さくらおろち湖周辺地域再生プロジェクト

## 事業概要

## プロジェクト・1「ダム湖周辺環境整備」

### ①景観整備事業

・ウォーキング協会主催のウォーキング大会と合わせて、ダム湖周辺に落ちているゴミ拾いを実施。

・ダム湖近辺にある「岩内山」「岩伏山」の展望台に通じる登山道の草刈を、周辺地域の地域づくりグループと連携して実施。

### ②釣りスポット整備事業（2012年3月以降）

・さくらおろち湖周辺で釣りを楽しめるように、周辺地域の地域づくりグループや斐伊川漁協と協力して「ワカサギ」を放流する。

### 2011年・8月

「岩伏山」「岩内山」の登山道の草刈りを、地元の地域づくりグループの協力のもと実施しました。

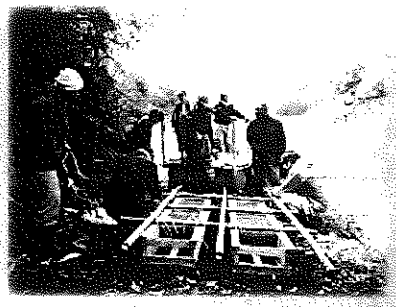
### 2011年・11月

雲南市ウォーキング協会の開催したウォーキングイベントに合わせて、ダム湖周辺の道路沿いのゴミ拾いを行った。

### 予定していること

3月…ヤマタノオロチ神話伝承地の現地見学会

3月以降…ワカサギの稚魚放流



～尾原ダム地域づくり推進連絡協議会～

# さくらおろち湖周辺地域再生プロジェクト

## プロジェクト・2「伝統文化の継承」

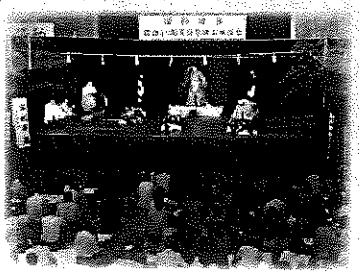
### ①ヤマタノオロチ伝説PR事業

・尾原ダム周辺地域のヤマタノオロチ伝説について、地域にお住いの皆さんが学びを深める機会を提供する。

### ②伝統文化の継承事業

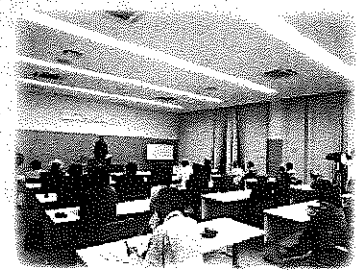
・ダム湖周辺の神楽3社中の演舞をDVDに収め、継承の一役を担いつつ、定期的に競演会を開催する。

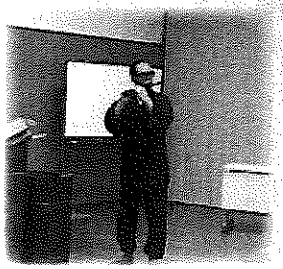
**2011年・9月**



「深野神楽社中」の演舞を、DVD及びブルーレイディスクに収録しました。

**2011年・10月**





「さくらおろち湖周辺のおろち伝説」に関する講演会を開催しました。

## プロジェクト・3「情報発信事業」

### ①ダム湖周辺地域ポータルサイト開設！

・9月に「さくらおろち湖周辺を100%楽しむサイト」がオープン。URLは以下の通り。

http://www.sakura-orochi.jp/

※メルマガ会員も受付中！

### ②テレビ番組作成

・ダム湖周辺の紹介、地域づくり活動紹介の番組を制作する。地元ケーブルテレビ（雲南夢ネット、ジョーホー奥出雲）で放映し、地元向けの情報発信を行う。

# しまね東日本大震災被災者支援推進協議会

## 事業名●東日本大震災被災者支援事業

**事業概要**

**1．被災者支援のための連携協働体制の構築、ミーティングの開催等**

①いずも支援ミーティングの開催
- 各団体・機関・企業・個人との情報交換

②県内支援
- 生活支援（物品提供）　・メンタルケア（花見会、子どもの日、母の日、畑作り）
- 情報紙（までえ通信）発行　・チャリティバザー　・募金活動
- 各種案内とイベント招待情報提供
- 出雲市民ボランティアウィーク「まちサポ」いずもと共催

③被災地支援
- 各地でのボランティア活動、調査（第1次派遣、第2次派遣、第3次派遣など）
- 在住外国人支援　・支援物資輸送
- 避難所支援（プライベートスペース「ささやか安心空間」の設置、心のケアイベント）

**2．被災者支援活動の情報収集と発信**
- 現地調査事業を実施（災害ボランティア派遣先の選定など環境整備）
- ブログや活動紹介パネルによる情報発信

**3．島根県の防災や災害時の連携協働体制の構築**

①情報交換と連携
- 松江市民から支援する会への参加と協力　・支援ヒアリングの開催

②島根県のボランティア・ＮＰＯ等の県内外災害時支援活動の仕組づくり・人材育成
- 災害ボランティア活動・防災啓発　・防災訓練　・ボランティアコーディネート力検定

## 組織体制

**しまね東日本大震災被災者支援推進協議会**
- 出雲市総合ボランティアセンター運営委員会（事務局）
- 島根県 NPO活動推進室
- 出雲市 市民活動支援課
- 島根県社会福祉協議会
- 出雲市社会福祉協議会

連携

**東日本大震災いずも支援チーム**
- 出雲市総合ボランティアセンター運営委員会
- 社団法人　出雲青年会議所
- 災害被災者を支援する「いずも」の会
- 東友会
- 島医支援の輪
- NPO法人エスペランサ
- 出雲スマイルメーカー
- 出雲の神芝居一座
- 出雲山の会
- 東日本大震災避難生活スタート支援しまね
- TICO学生ボランティア島根大学医学部チーム
- 株式会社　つみっく
- 個人
- ほか多数

[連携している被災地の団体]
- 亘理町災害ボランティアセンター［宮城県亘理町］
  （現在は亘理ささえあいセンター「ほっと」）
- NPO法人 亘理いちごっこ［宮城県亘理町］
- 国際交流協会わたり［宮城県亘理町］

[連絡先]
**出雲市総合ボランティアセンター**
TEL 0853-21-5400　FAX0853-21-1831
Mail: izuvolun@mx.miracle.ne.jp
URL http://fish.miracle.ne.jp/izuvolun/

# しまね東日本大震災被災者支援推進協議会

## 事業名●東日本大震災被災者支援事業

## ○被災者支援　～被災地支援～

### 先　遣　隊

**■東日本大震災いずも支援チームとは？**

今年3月11日に発生した東日本大震災で被災地の方々の為に出来ることをしようという一人一人の気持ちから個人・団体ボランティアが参加し、東日本大震災いずも支援チームが生まれました。
チームは現地で家の瓦礫の撤去や、泥のかきだしをする作業班と現地の災害ボランティアセンターを訪問し、情報の収集、交換をする調査班、そして作業班、調査班を支援する後方支援班で組織されています。

**■活動期間：**
**平成23年4月24日(日)～28日(木)**

**■活動場所：宮城県石巻市ほか**

**■参加人数：9名**

**■活動内容**

1）調査班
①災害ボランティアセンター訪問調査
女川町、東松島市、亘理町、岩沼市、名取市、塩竈市、多賀城市、七ヶ浜町
②避難所（逢隈小学校）訪問
→「ささやか安心空間」の使用調査
→更衣室やクローゼット、インターネットスペースとして利用
③宮城県災害ボランティアセンター訪問
県社協ボランティアセンターミーティング参加
2）作業班
・石巻災害ボランティアセンター本部にてボランティア登録
・被災した家屋の泥と瓦礫の撤去（2日間）

**■報告書より感想**

・津波によって被害にあったお宅の家屋清掃をした時、大切にされていた多くのものを処分しなければならず、とても心が痛みました。家の方はボランティアの方にとても気を使っておられましたが、明るく接してくれました。手がつけられていない地域もあり、復興するまでに長い期間での支援が必要だと改めて感じました。

### 2　次　隊

**■活動期間：**
**平成23年6月17日(金)～21日(火)**

**■活動場所：宮城県亘理町、石巻市**

**■参加人数：6名**

**■活動内容**

1）作業班
・亘理町災害ボランティアセンターにてボランティア登録
・被災した家屋の泥と瓦礫の撤去
・分譲住宅地の清掃除
2）調査班
①蔵王町「ふらっと一ほく」現地訪問
→「ふらっと一ほく」松島さんと面談
②亘理いちごっこ訪問
→出雲市民の方々より寄せられた千羽鶴とメッセージフラッグを提供
③石巻市飯野川第1小学校避難所聞き取り調査
→「ささやか安心空間」は頻繁ではないが使用されているとのこと
④石巻市中里小学校避難所聞き取り調査
→「ささやか安心空間」は好評で主に女の子たちが利用しているとのこと
⑤石巻市立釜小学校避難所聞き取り調査
→「ささやか安心空間」は立派すぎて使いづらいとのことで利用されていない

**■報告書より感想**

・実際に自分の目で被災地を見ることができたことが貴重な経験になりました。頻繁に現地に赴くことは難しくとも、まだまだ続く支援活動に微力ながら参加していこうと思っております。
・今後の支援としては、現地との直接的な支援ルートを確保し、何が必要かを調査し、それに基づいて行動を起こすのが良いと思います。

### 3　次　隊

**■活動期間：**
**平成23年8月10日(水)～14日(日)**

**■活動場所：宮城県石巻市、亘理町**

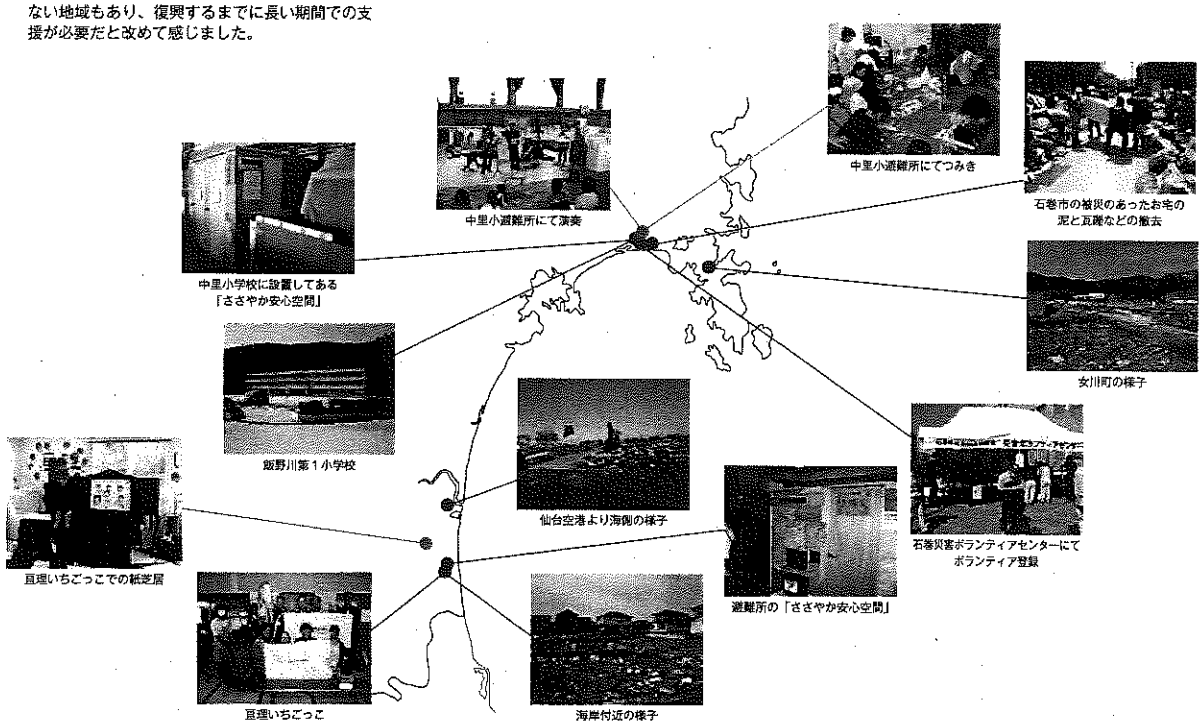
**■参加人数：9名**

**■活動内容**

①亘理町災害ボランティアセンター訪問
②亘理いちごっこ訪問
→KENN'Sによる演奏
→出雲の神芝居一座による紙芝居
→支援物資の提供
③石巻市萩浜小学校訪問
→支援物資の提供
④石巻市中里小学校訪問
→スリット溝付き十字型ブロック（つみき）の提供、実演
→出雲の神芝居一座による紙芝居
→KENN'Sによる演奏
⑤石巻市内被災地、仙台空港周辺、亘理町視察
⑥災害ボランティア活動支援プロジェクト会議、山下さん（日野ボランティア・ネットワーク）と面談

**■報告書より感想**

・子どもたちは楽器に興味を示し、演奏体験や音楽に合わせて踊るなど、積極的に聴いてくれていました。大人の方たちは懐メロや童謡を口ずさんだり、涙されたりしていました。
・演奏の後に現地の方が笑顔で話しかけてくれた時、笑顔が出せるまでどれだけつらい思いと戦い、どれだけ涙をながしたのだろうと瞬時に深い思いになりました。
・避難所の中は仲の良い地区のようにまとまりがあり、仮設住宅に移った時、孤独を感じたりしないだろうかという部分が気にかかる。



# しまね東日本大震災被災者支援推進協議会

## 事業名●東日本大震災被災者支援事業

## ○被災者支援～島根県へ避難して来られた方々への支援～

### ■東日本大震災被災者支援のためのミーティングの開催

東日本大震災直後の3月16日に第1回ミーティングを開催。月に1～2回程度を開催しており、12月末時点で17回開催した。

また、3月16日から出雲市への避難者支援についての相談を開始し、17日から避難者の方々へ生活物資の収集と提供を行った。

### ■フリーマーケットを共催

「東日本大震災避難生活スタート支援しまね」による「おすそわけ市」を5月29日に行った。当日はフリマの他にマッサージなどのブースや飲食、音楽ステージのブースがあり、たくさんの方に来場していただき賑わった。

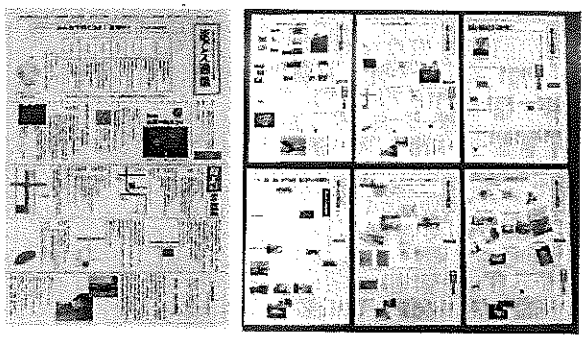
### ■花見会などを共催

「出雲スマイルメーカー」により出雲市への避難者の方々を招き、4月9日に「だんだん花見会」を行った。50名の参加があり、桜の木の下で和やかに花見をした。

また、5月5日には避難している子どもたちを対象に「母の日の贈り物作り」も行った。

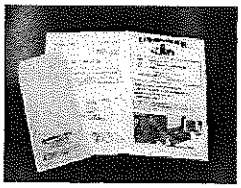
### ■「までえ通信」の発行

6月からは、被災者支援を目的に発足した「出雲スマイルメーカー」が、被災者への情報提供を目的とした情報紙「までえ通信」を編集・発行している。12月末までにで第6号まで発行した。



### ■その他の活動

5月からは、様々な団体が企画するイベントの開催案内・招待を出雲市内へ避難して来られた方々に対して行っている。



## ○支援活動のための情報収集・発信、災害に備えた連携協働体制の構築など

### ■被災地へ派遣した調査員の活動報告会

7月6日の「第10回東日本大震災被災者支援のためのミーティング」では、いずも支援チームの一員として宮城県亘理町災害ボランティアセンター支援と現地調査に携わった大賀陽平氏の活動報告会を開催した。

### ■出雲市民ボランティアウィークの協働開催

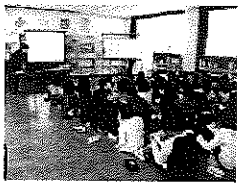
11月に出雲市民ボランティアウィークを協働開催し、今年は初日（19日）と最終日（26日）に震災に関する2回のイベントを実施した。

○11/19　宮城県亘理町災害ボランティアセンターより講師として育村由仙氏を招き、講演会を開催し、がれきの撤去や側溝の清掃などの取り組みの紹介や復興への熱い想いを語っていただいた。

○11/26　フリーマーケット、バザー、ライブ、小中学生や一般からの応援メッセージ・川柳・イラスト展示、東北でのボランティア活動の紹介、物品販売、国土交通省東北地方整備局の東日本大震災パネルの展示など行った。

### ■小中学校、自治会等に対する普及啓発

小中学校の授業や自治会・民生児童委員の研修会などで、被災者支援についての活動紹介や啓発を行っている。

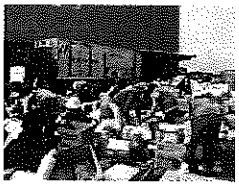


### ■他地域で活動する支援団体との連携

7月下旬より、「松江市民から支援する会」と情報交換と連携を開始し、12月には益田市市民活動センター「スマイルデスク」にて益田市・益田市社協・NPO等と情報交換を行った。

### ■支援物資関係のボランティアコーディネート

3月に出雲市が行った上田コールドでの支援物資受け取りには多くの市民が物資を持ち寄られ、たくさんのボランティアの方々をコーディネートし仕分けや積み込みを行った。

また、出雲青年会議所と連携し、簸上トラック物流倉庫でも支援物資の受付などにボランティアの方々が参加した。

その他、200件以上の物資提供や支援金などの申し出があり、被災地の災害ボランティアセンターやNPOなどと連携し支援物資の提供、輸送などを現在もコーディネートしている。